

1. 日 時 2001年4月3日（火）10:30～11:40

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤家委員長、遠藤委員、木元委員、竹内委員
内閣府
青山参事官（原子力担当）
経済産業省資源エネルギー庁
原子力政策課
森本企画官
（社）日本原子力産業会議
町常務理事

4. 議 題

- （1）FNCAコーディネータ会合結果について
- （2）平成12年度革新的実用原子力技術開発費補助金について
- （3）「ITER最終設計報告書（案）」の国内評価について
- （4）ITER計画懇談会報告書「国際熱核融合実験炉（ITER）計画の進め方について」（案）に対する意見募集について
- （5）藤家委員長の海外出張について
- （6）その他

5. 配布資料

- 資料1 第2回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）コーディネータ会合の要約
- 資料2 平成12年度革新的実用原子力技術開発費補助金について
- 資料3 「ITER最終設計報告書（案）」に対する国内評価報告書
- 資料4-1 ITER計画懇談会報告書（案）－国際熱核融合実験炉（ITER）計画の進め方について－
- 資料4-2 ITER計画懇談会報告書案に対する意見募集について
- 資料5 藤家原子力委員長の海外出張について
- 資料6 第12回原子力委員会定例会議議事録

6. 審議事項

- （1）FNCAコーディネータ会合結果について
標記の件について、町常務理事より資料1に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。
・注目された新規プロジェクト提案の大半は放射線利用に関するものである。

アジアで放射線利用のニーズが多いことを国内に知らせるべき。一般の人は、原子力利用をアジアへ広げることに対し不安感を持っている。原子力は放射線利用で広く活用され、喜ばれているということを知ってもらうほうがよい。

(町常務理事) FNCAのパブリックインフォメーション(P1)の中で、放射線利用についての広報活動を重点的に行っていきたい。

- ・原子力行政の体制が変わり、FNCAと原子力委員会との関係を整理する必要を感じる。また、アジア各国が必要としているのは、資金援助、技術協力ではないか。新規プロジェクトを見ても、工科大学などは、何の人材養成を行うのか、資金はどうするのか等が明確でない。また、FNCAでは、環境と原子力の関係が重要と言いながら、各国とも国連環境会議の場での発言がほとんど見られない。

(町常務理事) 水平協力に近い取り組みが行われていると思っている。例えば、日本原子力研究所にアジア各国から研究者を受け入れてきたが、かなりの研究力を持ち、相乗効果があった。一方、資金援助も大切で、水平協力での成果を実用化する場合に機材が必要になる。水平協力と資金援助の組み合わせが上手く行われることが重要であると考えます。

- ・FNCAの主催者が原子力委員会である必要性はあるか。

(町常務理事) アジア協力は、農業や医学分野など広いため、内閣府に位置する原子力委員会が行うことが重要である。また、外務省が行っているRCAとの関係を整理していくのも原子力委員会が適していると考えます。

- ・FNCAが他省庁を巻き込むほど将来の発展が望めるかどうか、今後調査分析することが必要である。
- ・4. に「国内予算等のリソースを確保するためFNCAを正式な協定にすることが望ましい・・・」とあるが、8条委員会である原子力委員会は協定を結べないと思う。また、各分科会について必要に応じて参加国も変えていくことが必要である。

(2) 平成12年度革新的実用原子力技術開発費補助金について

標記の件について、森本原子力政策課企画官より資料2に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

- ・産学共同や競争原理が働くという点は評価する。繰り越し研究はどうか。

(森本企画官) 制度初年度であり、枠組み作りに時間を要した分、繰り越しになった。必要な費用は13年度に繰り越すこととなる。

- ・テーマの採択は審査委員会で行われるのか。

(森本企画官) そうである。中間評価も含め、全て審査委員会で行われる。

- ・対象とする技術開発に実用とつけたのはなぜか。

(森本企画官) 将来の現実的な技術選択肢提供のための研究開発を行うには、産学共同で要素技術を実用化していく必要があるためである。

(3) 「ITER最終設計報告書(案)」の国内評価について

標記について、青山参事官より資料3に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

- ・付帯的提案についてどう考えるか。

(青山参事官) 今後、国内外において最終設計報告書(案)が議論されていく過程での期待が込められている。

- ・付帯的提案の「技術部会と同様の主体により」はどのような留意が必要か。

(青山参事官) ITER/EDA技術部会では、核融合のさまざまな分野の専門家で議論がなされたことから、総合的・網羅的にカバーできる人材により仕事が進められるようにということと理解する。

(4) ITER計画懇談会報告書「国際熱核融合実験炉(ITER)計画の進め方について」(案)に対する意見募集について

標記について、青山参事官より資料4-1の紹介と、資料4-2により本日から5月2日までの間、国民からの意見募集を行う旨説明があり、意見募集について了承された。以下のとおり質疑応答があった。

- ・報告書をまとめた後、国際競争があることを前提に可及的速やかに作業を進めてほしい。

- ・誘致を陳情している地域の人々への意見募集は別の方法で行うのか。

(青山参事官) 一般の募集と同じである。

(5) 藤家委員長の海外出張について

標記について、青山参事官より資料5に基づき説明があった。

(6) その他

- ・事務局作成の資料6の第12回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。